

1. C S R 報告書とは

本年度のメールマガジンシリーズでは色々の観点からC S R（企業の社会的責任）について述べてきましたが、今回は多くの大企業が公開しているC S R 報告書についてその意義及び中小企業経営者としての見方について説明します。

現在、自社の社会的責任の取り組みを広く社会にP R し、企業を取り巻く利害関係者の信頼を得て、企業の発展につなげることが必至となってきました。企業は単に自社の利益のみを追求するのではなく、いわゆる“トリプルボトムライン(経済・環境・社会)”を満足させる経営を行うことが要求されます。環境国際規格I S O 1 4 0 0 1 認証取得に触発された地球環境を守る企業活動から、環境を含む社会的責任(C S R)を広く追及することが必然的な流れといえるでしょう。

そのため自社のC S R についての考え方や具体的な取り組みを広く社会に公開する媒体がC S R 報告書です。企業によっては環境報告書、環境・社会報告書、サステナビリティ報告書等の名称を用いているものもありますがこれらもC S R 報告書と同じと見てよいでしょう。C S R 報告書は多くの大企業が冊子やホームページで公開しています。企業のホームページにアクセスすると見ることができますし、冊子を取り寄せることもできます。例えば最近発売された“日経エコロジー”2007年2月号の付録の、135社の報告書を収録したDVD-ROMも参考になります。

2. C S R 報告書の構成

C S R 報告書の構成は夫々の企業が独自の編集をしています、そこに謳われている課題の共通項として次のようなものが挙げられます。

企業理念：環境貢献、社会貢献に関する最高経営者の想い

コーポレートガバナンス：企業の社会的責任を遂行する社内組織体制

コンプライアンス：関連する法令順守に対する具体的取り組み

環境貢献商品：自社の事業に係る設計・開発・生産・販売・サービス等における環境配慮の実態

大気汚染・地球温暖化対応：低公害車の導入、アイドリングストップの実施、チーム・マイ

ナス6%への参加

省エネルギー対策：省エネ型設備導入、無駄なエネルギーの節約

資源節約・廃棄物対策：3 R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進、ごみの分別、ゼロエミッションへの取り組み

化学物質の管理：有害化学物質の除去、法に則った管理体制

オフィスの環境対策：グリーン購入、ハウスダスト対策、室内環境の整備(5 S 活動)

自社周辺環境の整備：敷地内の緑化、周辺道路の清掃

情報公開とコミュニケーション：地域、顧客との種々の交流

事業所の安全・防災対策：火災等の緊急事態に対応した体制・広報

自社の扱う商品の安全性と品質の確保：お客様に安全に使用していただくための各種対応
I S O 1 4 0 0 1 マネジメントシステムの導入：経営の基本となるシステムの運用状況

などなど、C S R に関する課題は多角的です。

もちろん、これら全てに対応するというのではなく、重点指向、絞り込みも自由です。これらの地道な活動の一つ一つが環境貢献、社会貢献につながるのです。

3. 中小企業におけるC S R 報告書の作成

中小企業にあっても既にC S R 報告書を作成、公開しているところもありますが、編集作業の手間、コストを考えると躊躇されている企業も多いと思います。しかしながら会社の規模の大小に係らず、今後の企業経営においてC S R の遂行は必須です。同業他社との競合の中で社会的貢献度による顧客信頼の獲得が自社の優位性を確保することにもなります。

経営者の皆様は自社としてどのようにC S R (企業の社会的責任)を遂行して行くかを既に考え、実行されていると思います。従って、自社のC S R の取り組みをまとめ、同業種の企業の報告書記載事例を参考にして、整理して公開されてはいかがでしょうか。大企業のように数十ページの立派な冊子でなくとも、A 3一枚見開き程度のもので充分です。ホームページに記載するだけでもよいと考えます。